

2015 年 10 月に開催された国際会議案件について

平成 27 年 10 月 29 日

内 閣 府

政策統括官(科学技術・イノベーション担当)

1. 第 12 回国際科学技術関係大臣会合について
2. 第 13 回日米科学技術協力合同高級委員会について
3. G 7 科学大臣会合（ドイツ・ベルリン）について
4. 経済協力開発機構（OECD）科学技術政策委員会閣僚級会合について

1. 第 12 回国際科学技術関係大臣会合について

“The 12th Science and technology Ministers’ Roundtable”

1. 日 時：2015 年 10 月 4 日（日） 16:40～18:50

2. 場 所：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池） Room A

3. 参加者：世界 26 ヶ国の科学技術大臣等が参加（日本を含む：別紙参照）

4. テーマ：インクルーシブ・イノベーション戦略-科学技術イノベーションにおける国際協働の役割-
Strategies for Inclusive Innovation-The Role of International Cooperation in Science, Technology and Innovation-

<論点>

- ① 各国におけるインクルーシブ・イノベーションを促進する上において、科学技術イノベーションを活用した成功事例や、これを実現するための政策的支援の現状如何。
- ② 科学技術を主軸としたインクルーシブ・イノベーションを推進するために、各国はどのように国際協働・協調していくべきか。

5. 結果概要：

(1) 山口科学技術政策担当大臣が会議の議長を務めた。冒頭、山口大臣から、

- 日本の科学技術イノベーション政策を推進する上で基本となる「科学技術基本計画」について、現在、2016 年度から 2020 年度までの 5 カ年の計画となる「第 5 期科学技術基本計画」の策定を進めていること。
- 第 5 期科学技術基本計画の始動に合わせて、本年 6 月に「科学技術イノベーション総合戦略 2015」を策定し、2016 年度予算における重点を置くべき政策分野を示したこと。について言及があった。

また、本会合のテーマであるインクルーシブ・イノベーション戦略については、世界の国々が抱える環境汚染や資源枯渇などの課題解決にあたって、課題を社会全体で包摂し、持続可能な経済活動に巻き込むイノベーションの展開が必要であり、そのための科学技術イノベーションの役割や各国のニーズに応じた国際協働の重要性について論点に沿って情報交換・意見交換を行いたい旨の発言があった。

(2) 次に、森本内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）より、インクルーシブ・イノベーションの考え方や、科学技術を活用した社会実装の事例紹介に加えて、我が国の科学技術イノベーション政策（「第 5 期科学技術基本計画」、「科学技術イノベーション総合戦略 2015」の策定等）の動向について説明があり、これらの政策を通じて、グローバル社会において我が国が科学技術イノベーションの推進の強化を目指している旨説明があった。

(3) 続いて、議論をリードしてもらうため、ジョン・ホルドレン米国大統領補佐官（科学技術担当）より、米国の取組等について説明があった。

インクルーシブ・イノベーションは、各コミュニティのメンバーそのものがイノベーターとして活躍することが重要であること。そのため、米国では、政策公募のための「Challenge.gov」やシチズンサイエンス^(注 1)に関する取り組みなど、科学やイノベーションの現場に市民自身が参加する機会を設けている旨の説明があった。さらに、近年、低価格のセンサ類やスマートフォンなどのソーシャルメディアの普及に伴い、オープンイノベーションを基にした新しいメーカームーブメントが興っている。情報ネットワークの発展に伴い、世界中の人々が情報を共有しあうイノベーションネットワークが実現しつつある潮流は、各国における課題解決の糸口になるだろうと提案した。

(注 1) 「シチズンサイエンス（市民科学）」： 本来、天文学などの分野におけるアマチュア専門家らによる学術活動をさしていたが、近年の情報技術の進歩に伴い、デジタルツールやオンラインネットワークを通じて専門家に加えて一般市民も参加し、得られた情報を共有しながら研究を推進するような取組が行われている。

(4) その後、出席者の間で意見交換が行われた。具体的には、

- ① インクルーシブ・イノベーションの推進については、各国ともその必要性、重要性について同様の認識を持っていることが確認でき、また、社会的課題の解決においては、コミュニティ発の事業展開を通じた取組が推進されていることが確認された。
- ② 各国とも経済的な格差拡大などの課題を抱えており、その解決に向けてインクルーシブ・イノベーションの観点を取り入れたアプローチは有効であること、インクルーシブ・イノベーションを推進する上では、教育が重要であることについて指摘があった。
- ③ インクルーシブ・イノベーションの促進において、スマートフォンなどのソーシャルメ

ディアの普及は、知識・情報伝達における草の根的活動を推進しており、各国のイノベーション促進に寄与していることが示唆された。

- ④ 各国より、インクルーシブ・イノベーション推進に係る施策や事例が紹介されたが、教育、水資源、自然災害、医療などの社会的課題は国によって事情が異なり、国際協働・協力については、二国間或いは多国間の枠組みなど様々な協働・協力が必要であることについて、共通認識が得られた。

(5) 最後に山口大臣から、参加各国に対して謝意が伝えられるとともに、本会合を通じて、インクルーシブ・イノベーションにおける科学技術イノベーションの役割やその国際協働の重要性について認識が深まり、今後、一カ国だけでは解決困難な地球規模の課題に向けて、参加各国で連携等が促進されることを期待する旨の発言があった。

6. 二国間会談

山口大臣は、本大臣会合に出席した以下の大臣等と二国間会談を行った。

- タネフ教育科学大臣（ブルガリア）
- カストロ国家評議会科学顧問（キューバ）
- マンドン国民教育・高等教育・研究大臣付高等教育・研究担当大臣（フランス）
- プリサカール国家科学研究イノベーション省局長（ルーマニア）

第 12 回国際科学技術関係大臣会合出席者

2015 年 10 月 4 日（日） 16:40-18:50

	国名	氏名	役職
1	ブルガリア	トドル・タネフ	教育科学大臣
2	ブルキナファソ	ジャン＝ノエル・ポダ	科学研究イノベーション大臣
3	カンボジア	ハン・チュオンナロン	教育・青年・スポーツ大臣
4	キューバ	フィデル・カストロ,ディアス・バラルト	国家評議会科学顧問
5	ドミニカ共和国	プラシド・ゴメス・ラミレス	科学技術副大臣
6	フィンランド	ペッカ・ソイニ	フィンランド技術庁理事長
7	フランス	ティエリー・マンドン	国民教育・高等教育・研究大臣付高等教育・研究担当大臣
8	ドイツ	ジョージ・シュッテ	教育研究省事務次官
9	ハンガリー	ヨージェフ・パーリンカーシュ	国家研究開発イノベーション局長
10	イラン	モハンマド・ファルハーディ	科学研究技術大臣
11	日本	山口 俊一	科学技術政策担当大臣
12	クウェート	バデル・アルエイッサ	教育大臣兼高等教育大臣
13	レソト	ホツォ リザツィ	通信・科学・技術大臣
14	マレーシア	ダトゥク・マディアス・タンガウ	科学技術イノベーション大臣
15	メキシコ	ルイス・トレブランカ	国家科学技術審議会副長官
16	ルーマニア	トゥドール・プリサカール	国家科学研究イノベーション省局長
17	シンガポール	リム・チュアンポー	科学技術研究開発庁(A*STAR)長官
18	南アフリカ	グレイス・ナレディ・パンドール	科学技術大臣
19	スウェーデン	ヘレーナ・ヘルマルク・クヌートソン	高等教育研究大臣
20	タイ	ピチェット・ドゥロンジカヴェロ	科学技術大臣
21	チュニジア	シヘブ ブデン	高等教育・科学研究大臣
22	トルコ	アーメド・アリフ・エルギン	トルコ科学技術研究会議長

23	トルクメニスタン	エリアソフ・マメットベルディ	内閣府科学技術部部長
24	英国	マーク・ウォルポート	英国政府主席科学顧問
25	米国	ジョン・ホルドレン	大統領補佐官（科学技術担当）
26	ベトナム	トラン・クォク・カン	科学技術副大臣

第 12 回国際科学技術関係大臣会合の様子



議長を務める山口大臣



リードスピーチ（日本、米国）



意見交換の様子

2. 第 13 回日米科学技術協力合同高級委員会について

1. 日 時：2015 年 10 月 6 日（火） 9:00～11:40

2. 場 所：三田共用会議所（東京都港区港区三田）

3. 参加者：

共同議長： 山口科学技術政策担当大臣、下村文部科学大臣、
ジョン・ホルドレン大統領補佐官（科学技術担当）

共同議長代理：平内閣府副大臣、藤井文部科学副大臣

4. 結果概要：

山口科学技術政策担当大臣は、2015 年 10 月 6 日（火）、都内で開催された第 13 回日米科学技術協力合同高級委員会に、下村文部科学大臣とともに共同議長として出席した。（なお、山口、下村両大臣が閣議等で出席できない間は、平、藤井両副大臣が代理を務めた。）

本委員会では、我が国から第 5 期科学技術基本計画の策定状況等について説明するとともに、米国側の議長であるホルドレン大統領補佐官からオバマ政権下におけるイノベーション戦略の動向等について報告が行われた。さらに、両国における医療研究、データサイエンス、エネルギー、ハイパフォーマンズ・コンピューティング分野の取組が紹介され、科学技術政策担当者とハイレベルな意見交換を行うとともに、今後の協力強化について確認された。

山口大臣は、最後に、本委員会において、日米協力が新たなステージを迎え、今後、日米の科学技術協力が一層進展することを期待する旨を述べた。



共同議長を務める山口大臣及び下村大臣



米国側議長：ホルドレン大統領補佐官

3. G7科学大臣会合（ドイツ・ベルリン）について

1. 日 時：2015 年 10 月 8 日（木）～10 日（土）

2. 場 所：Schlosshotel im Grunewald（ドイツ・ベルリン）

3. 参加者：

ヨハンナ ヴァンカ 教育研究大臣（独）

原山 優子 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員（代理）

ステファニア ジャンニーニ 教育大学研究大臣（伊）

アラン・バーデット カナダ保健研究機構理事長（加：代理）

ティエリー マンドン国民教育・高等教育・研究大臣付高等教育・研究担当大臣（仏）

ジョン ホルドレン 大統領補佐官（科学技術担当）・大統領府科学技術政策局長（米）

ジョー ジョンソン 大学科学担当大臣（英）

カルロス モエダス 欧州委員会 研究科学イノベーション委員（EU）等

4. 結果概要：

2015年10月8日（木）～10月10日（土）の日程でドイツ（ベルリン）においてG7科学大臣会合が開催され、島尻科学技術政策担当大臣の代理として、原山議員が出席した。G7の科学技術担当大臣が集まる会合は、平成20年に日本の発案により沖縄で開催されて以来、平成25年の英国に続いて、3回目の会合となる。開催国であるドイツのヨハンナ・ヴァンカ連邦教育・研究大臣が本会合の議長を務めた。

本会合に先立ち、10月8日（木）に同会合におけるSenior Officials Meeting（高級実務者会合：SOM）が開催され、日本からは中西大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）が出席した。

本会合においては、科学が地球規模課題に対して解決策を提示し、イノベーションを実現するだけでなく、各国の繁栄を確保する上で重要な役割を果たし、G7首脳会合で議題として取り上げた保健、海洋、エネルギー、環境などの世界的な共通課題の認識を共有するとともに、G7各国がいかにして、それら課題を科学の力で解決できるかについて議論がなされた。具体的には、顧みられない熱帯病、海洋

の未来（海ゴミ及び深海掘削）、クリーンエネルギー、大規模研究施設をテーマに議論が行われ、それぞれのテーマの推進を図るため、今後その進捗状況等を確認していくことがコミュニケとしてまとめられ、了解された。

また、原山議員から、来年5月に茨城県つくば市で開催するG7茨城・つくば科学技術大臣会合の概要について紹介するとともに、G7各国に対して出席・協力を求めた。



大臣会合の様子



SOMの様子

4. 経済協力開発機構（OECD）科学技術政策委員会閣僚級会合について

1. 日 時：2015 年 10 月 20 日（火）～21 日（水）
2. 場 所：テジョンコンベンションセンター（韓国・テジョン）
3. 参加者：O E C D加盟 30 カ国の閣僚級等
4. 結果概要：

2015年10月20日（火）～10月21日（水）の日程で韓国（テジョン）において経済協力開発機構（OECD）科学技術政策委員会閣僚級会合が開催され、島尻科学技術担当大臣が出席した。

① OECD科学技術政策委員会閣僚級会合

10月21日（水）に開催された「政府に対する科学的助言の在り方」をテーマとしたセッションの議長を務め、各国の閣僚等と科学的助言の必要性、そのプロセスやメカニズムについて意見交換を行った。

島尻大臣は議長として、本セッションの議論を踏まえ、一ヶ国のみでは解決できない地球規模課題の解決に向けて、参加各国間で様々な協調・協働が推進されるとともに、そのための持続可能な基盤が強化されていくことを期待する旨を述べた。

② バイ会談

同会合の合間に、イタリアのジャンニーニ教育大学科学大臣、米国のハンデルスマン大統領府科学技術局副長官などG7からの出席者に対しては、来年5月に茨城県つくば市で開催するG7科学技術大臣会合への出席・協力を求めた。

また、以下の閣僚等と個別に会談を行った。

スイスのデルアンブロージオ教育・研究・イノベーション庁長官とは、イノベーションランキング1位の秘訣や、日スイス間の人的交流等について意見交換を行った。

韓国のチェ・ヤンヒ未来創造科学部長官とは、日韓間の未来を志向した科学技術協力の推進のため、両国間の関係強化について認識が一致した。

さらに、ソウルにおいて、韓国の与党セヌリ党で科学技術イノベーション政策を主導しているミン・ビョンジュ国会議員と、科学技術イノベーション政策の取組状況、女性の活躍拡大等のアイディアなどについて意見交換を行った。

OECD科学技術政策委員会閣僚級会合の様子



議長を務める島尻大臣



集合写真

バイ会談等の様子



ジャンニーニ大臣（伊）



デルアंबロージオ長官（スイス）



チェ・ヤンヒ長官（韓国）



ミン・ビョンジュ議員（韓国）